もう一つの手

所沢市立狭山ヶ丘中学校
3 年　　宮 澤　　伶 奈

みなさんは，毎年行われる体育祭は好きですか。1 年の中で最も大きな行事ですね。生徒だけでなく生徒の家族にも愛されています。でも，私が小学生のときのあるクラスメートは楽しむことができませんでした。彼女は運動が得意ではなく，彼女が失敗すると，クラスメートは「あの子がいなければ，私たちは勝てるのにね。」と言っていました。彼女はそれを聞き，とても傷ついていました。このようないじめは私の学校だけでなく，日本中の学校でも見られると思います。昨年，日本の学校において 61 万件のいじめが発生しました。私は，このスピーチを通して，みなさんにいじめ問題について理解してもらい，解決するために何ができるかを理解してほしいのです。

私の友達に話を戻します。当時，私は彼女を助けるため何をすればいいか分かりませんでした。今振り返ってみると，私は彼女のために立ち上がり，クラスメートに止めるように言うべきであったと思っています。いじめている生徒に立ち向かうのは難しいことです。強く自信を持たねばなりません。いじめを止める一番の方法は，被害者を守ることです。私たちは力を合わせればより強くなれることを忘れてはいけません。

しかし，クラスの中でいじめを発見することは容易ではありません。いじめはエスカレートする前に止めることが欠かせません。私の学校では，1 年間に 2 度二者面談を行っています。この面談で，生徒は個別に悩みを相談することができるのです。この面談はとても役に立ちますが，私たちにはそのような機会がもっと必要であると思います。生徒同士手で悩みを相談する方が気楽です。そこで私は，リーダーの生徒と他の生徒たちとの面談を提案します。生徒同士の会話が増えれば，誰かが傷つく前に，私たちはいじめに気が付き，防ぐことができると思います。

残念ながら，現在いじめ問題は学校という枠を大きく超えてしまっています。ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）は，いじめが潜む場となっています。現在，人は相手のことを見ずに，言いたいことを言うことができています。そのため，人は傷つけるような言葉をあまり気にせず言ってしまうのです。この問題を解決するには，私はだれかと話す時に使う言葉にもっと注意を払わなければなりません。さらに，SNS に暴言を使うことができないシステムを作るべきです。もしそうすれば，保護者に警告通知が送られるのです。こうすることで，日本中のいじめが徐々になくなっていくのではないでしょうか。

終わりに，サム・レベンソンの言葉を紹介します。「年をとると，人は自分に二つの手があることに気付きます。一つの手は自分自身を助けるため，もう一つの手は他者を助けるために。」私のもう一つの手で，学級委員として私はクラスの一人一人を大切にして，彼らの悩みに耳を傾け，気持ちに寄り添いながら，いじめを防いでいきたいと思います。皆さんに質問させてください。あなたは，あなたのもう一つの手で，いじめに苦しむ人を救うためにどんなことができますか。